

第3回米原市まち・ひと・しごと創生に関する有識者会議 会議録

会 議 名	第3回米原市まち・ひと・しごと創生に関する有識者会議
開 催 日 時	令和2年1月23日（木）13時30分～15時15分
開 催 場 所	米原市役所米原庁舎 会議室2AB（2階）
出席者および 欠席者	【出席者】金井座長、萩原副座長、古澤委員、村田委員、田川委員、中村委員、川瀬委員、馬淵委員、宮崎委員、高木委員（10名） 【欠席者】北村委員、大澤委員（2名）
議 題	(1) 米原市人口ビジョンの改訂について (2) 第2期まち・ひと・しごと米原創生総合戦略について
結 論	(1) 米原市人口ビジョンの改訂について ・数値目標を引き下げるのはやむを得ない。 ・若者が都市部に出ても戻りやすい戦略をたてることが重要。 (2) 第2期まち・ひと・しごと米原創生総合戦略について ・スマート農業は難しい部分もある。資金面でのリスク低減のあり方や必要性を考えるべきである。 ・市内には魅力が多いが、効果的な発信ができていない。地域の資産の棚卸しを行い、PR方法や発信の優先順位などを整理した上で発信すべき。 ・米原市は食のイメージがない。食のイメージを作ることが重要。 ・米原駅東口周辺まちづくりでは、人材育成と起業支援をセットにしたオープンラボをつくってはどうか。 ・新幹線の利便性を有しながらも自然を生かした趣味ができるまちとしての魅力発信や豊かな自然を生かした自然科学体験カリキュラムを構築してはどうか。 ・既に人の賑わいがある場所での経済活動を支援してはどうか。 ・デジタルサイネージはほとんど見てもらえないため、整備するよりも他の設備に費用を充てる方が良いのではないか。 ・まいちゃん号の市外の利用の促進やアプリ利用、運用時間の拡大など利便性向上を図るべき。 ・動画による発信が必須であり、市内外の人が米原市を題材とした動画を作る仕掛けをしてはどうか。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)	1 開会あいさつ (政策推進部次長) 2 協議事項 (1) 米原市人口ビジョンの改訂について ・出生率も下がっており、数値目標を引き下げるのはやむを得ない。 ・将来的には労働力が不足することから、今回の計画では、そこまでではないが、将来的には移民のことも考えていかなければならない。東北でも受入が進んでおり、瀬戸内でも定住型の受入れや外国からの出資がある事例もある。慎重に対応すべきだが、検討の余地はある。

- ・一旦は都市部に出ても、その経験を持ち帰って生かしてもらおう戦略が重要。
- ・5年、10年内定を出している企業もある。戻れる場所がある情報を持ってもらうことが大切。

## (2) 第2期まち・ひと・しごと米原創生総合戦略について

- ・スマート農業はなかなかうまくいかない。ヨーロッパのように気候が安定していると良いが、日本ではなかなか難しい。
- ・ハウスの設備の場合はなるべく小さな施設で効率的な仕組みが必要でなければ償還できない。また、耕作放棄地に設置するためには膨大な費用がかかる。本当に必要か検討が必要。
- ・スマート農業はモデル施設での展開からスタートし、企業版ふるさと納税を活用することで市の負担を減らしながら実施していく。
- ・伊吹そばを推進しており、ハウスで新たな作物を育てることに違和感を覚える。
- ・AIは人間の感情労働と機械の合理性の融合が難しく、全て工程導入することは困難。農業分野も一部を導入することにはメリットがある。
- ・米原駅周辺東口まちづくりの中でオープンラボを構築したり、大学等と連携するなど、将来的な働き方改革や新たな産業創出につながる取組として実施すべき。
- ・長野県では、果実が赤い夏秋のイチゴを作っている。施設ありきだけでなく、端境期を意識して取組などマーケットを見て検討し、取り組むことも重要。
- ・米原はホテルなのか、水なのか。市のイメージは薄い。そばを売り出しているが、そばの花が咲く景色はそれほど多くない。「米原といえばこれ」というものがない状態。
- ・実際に市内を見ると、市内には魅力が多い。資産の棚卸しができていないと思う。何があって、どうPRするか整理し、発信すべきか、検証する必要がある。内部、外部の目線をうまく使って、資産の棚卸しを行った上で発信していく。響くものはさらに発信し、響かないものは手を引くなど、走りながら考えることが大切。
- ・米原市は食のイメージがない。来訪のためには、食のイメージを作ることが重要。
- ・東口まちづくりでは、事業開発を行うラボを創っていくべき。人材育成のしくみと起業支援をかみ合わせた施設をつくり、チャレンジと発信ができる拠点としての場所づくりをしてはどうか。
- ・米原は「体感」が売りになる。商業施設、遊興施設は少ないが自然を使って楽しむことができる。ここまで自然生かした体験ができるまちは少ない。新幹線を使って登山やスキーができるまちというだけでも全国から来てもらえると思う。
- ・米原市の人には人が集まっても商売をしようとする人は少ない。既に賑わいがある場所で乃経済活動を行政が積極的に支援してはどうか。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内での宿泊先、移動手段について情報が少なく、観光協会の情報発信がない。情報が少ないから市内を巡回する動きになっていない。発信をしないものはビジネスと呼べない。発信することが大切。</li> <li>・単にそばだけでは長野に勝てない。みょうがや鮎ずしなど。そばと何かを掛け合わせる発想も大切。</li> <li>・オープンラボは、施設を構えるようなものでなく、伊吹の天窓でも広い意味でオープンラボであり、企業連携も住民との対話もオープンラボの1つ。オープンラボのイメージを変え、動きながら米原らしいオープンラボを作るほうが良い。</li> <li>・販売促進とマーケティングの人材が全国的に不足しているが、主婦はその目線を有しており、活用することで補うことができる。また、シニアの経験も積極的に生かすべき。</li> <li>・デジタルサイネージの整備は製作した物の投影が主目的となる。デジタルサイネージを整備するよりもミシンや加工機械など原初的な設備に費用を当てるほうが良いのではないか。</li> <li>・デジタルサイネージはほとんど見てもらえない。パネルも効果であり、ネット配信で足りる部分もある。減価償却ができない事例もある。</li> <li>・まいちゃん号について、外部の人は知らない。スマホで予約して伊吹山の登山口まで行くことができるなど、駅から観光地へのアクセスなど気軽に便利に使えるようにしてはどうか。利用時間が夜8時までとなっているが、飲食利用を促進するため、利用時間を拡大してはどうか。</li> <li>・まいちゃん号はジャパントクシーと連携してアプリを導入してはどうか。</li> <li>・体験や食を充実するだけでなく、リピートしたくなる仕組みづくりも重要。</li> <li>・「交通の便が悪いから人が来ない。」は言い訳であり、来てもらう仕掛けをどう作るかが鍵。今は「探して行く」文化であり、行けない所に行きたい、いい所を見つけないと思う人が多い。</li> <li>・那須では、山遊びから木の種類を学び、夜には星空から星を学ぶ自然科学体験のカリキュラムを作っているところもある。米原市でもできるのではないか。</li> <li>・ホッケーは室内での競技もある。体験できる環境があってもよい。</li> <li>・動画のコンテンツを増やすべき。市が増やすのではなく、皆が市のことを取り上げるしくみを創るべき。</li> </ul>
<p>会議の公開・非公開の別</p>	<p>■公開      傍聴者： 0人</p>
<p>会議録の開示・非開示の別</p>	<p>■開示</p>
<p>全部記録の有無</p>	<p>会議の全部記録    □有      ■無 録音テープ記録    ■有      □無</p>
<p>担      当      課</p>	<p>政策推進課（内線91-246）</p>